

議 長	局長補佐	係 長	回 議	主 査
				

総務常任委員会 視察報告

油本朋也

【 所 感 】

**赤穂市**

- ・賑わいのある町づくりの取り組み
- ・人口増加対策

市の中心地の景観が好印象。電柱を撤去し建造物が低く抑えられ、見晴らしが良い。建物の外壁の塗装を白系にして統一感がある。歩道の幅を広くとり松並木を配し、美しくゆったりした街並みが演出されている。

中心市街地の、空洞化した商店街の活用に工夫が感じられる。

赤穂市単独ではなく近隣の市と「はりま城下町カルテット」を組織し、その連携により互いの得意分野を生かすことで、広域的な観光地を目指している点など、とても興味深い。

市の観光PR用のDVDが見た目も美しく、分かりやすく好印象。

定住支援ガイドブックや、赤穂市の自慢できるものを何でも掲載した「わがまち何でも自慢」は、塩と赤穂浪士だけではなく、ほかの観光の目玉になりうるものも徹底的にアピールして、とにかく定住を促し、観光で賑わいを作りたいという気迫が伝わってきた。

**淡路市**

- ・商業施設進出における行政の取り組み

プラントの進出は民間同士の交渉の結果であり、行政は関与していない。

既存のイオンモールの隣に進出したが、出店が昨年9月とまだ日も浅く、現地のそれによる影響などもまだ把握できないのでは。

## 三豊市

### ・ 公共施設の再配置計画の取り組み

市長の考えに沿った行政側の指導で、7町合併にもかかわらず公的施設の統廃合が順調に進み、不要となる施設の処理が行われていた。首長のリーダーシップの大切さを実感する。

行政は平成18年の合併以来、市内にある公共施設、設備の価値を把握し、再配置、再利用を考えている。不要となった施設を民間への売却が好調。廃校になった学校は植物工場や農産物加工場になった。廃校になった学校の中で売却先が決まっていないのは、離島の小学校が1校だけらしい。

施設が廃止される地域の住民への説得は、特に苦勞していない様子であった。北栄町が近い将来、避けて通ることのできない問題を解決するため、参考になる要素がたくさんあったのではないか。